

| | |
|------|---|
| 資料番号 | 8 |
|------|---|

| |
|-----------------|
| 令和6年9月12日 |
| 課名 上下水道部上下水道総務課 |
| 担当者 課長 大島 |
| 内線 4310 |

株式会社水みらい広島の取組状況について

1 要旨

県出資法人の「株式会社水みらい広島（以下、「水みらい広島」という。）」の取組状況について報告する。

2 水みらい広島の概要

水みらい広島は、県と事業パートナーである水ing株式会社（以下、「水ing」という。）が共同出資し、全国初の民間主導の公民共同企業体として、平成24年9月に設立した会社であり、令和6年9月で設立から12年となる。

(ア) 設立目的

公と民がそれぞれの得意分野を生かすことによって、安心、安全、良質な水の安定供給を基本に、県営水道事業の運営基盤の強化、市町水道事業の管理の一元化を進め、県民・企業から信頼される持続可能な水道事業の実現に貢献し、広く水道事業の一翼を担うとともに、新たな収益源の確保により、地域経済の発展・活性化に寄与する。

(イ) 主な事業

- ① 上下水道施設等の運転、維持管理
- ② 上下水道等に関するコンサルティング業務、人材育成・研修業務等

(ウ) 資本金

6,000万円（設立時：県35%、水ing65%）※現在、県35%、呉市3%、水ing62%

3 水みらい広島の取組状況

(1) 概要

設立以来、培ってきた公民連携による維持管理のノウハウやDX技術などの強みを活かし、水道事業が抱える課題の解決への貢献と経営基盤の強化により、更なる企業成長を目指し、着実に取組を進めている。

| 目的 | 具体的な取組 |
|----------------------------------|---|
| ◎持続可能な水道事業の実現 (水道事業の経営基盤の強化等) | ① 水道施設等の運転監視、維持管理 ② DXの推進 ③ アセットマネジメントの推進 |
| ◎地域経済の発展・活性化に寄与 (新たな収益源の確保) | ④ 技術者育成・研修 ⑤ その他（GX、下水道分野） ⑥ 地域貢献 |

(2) 具体的な取組

① 水道施設等の運転監視、維持管理

ア 県営水道事業等における指定管理業務の実施

- 平成25年度から広島西部地域水道用水供給事業、平成27年度から沼田川工業用水道事業・沼田川水道用水供給事業の指定管理業務を受託した。令和5年度、広島県水道広域連合企業団（以下、「水道企業団」という。）に事業が移管された後も、引き続き指定管理者に指定され、円滑に業務を実施している。
- 平成27年度から呉市の施設の運転監視業務を受託し、その業務実績から、平成31年度からは指定管理者に指定され、円滑に業務を実施している。

イ 水道事業等における運転監視業務等の受注拡大

- 水道事業の管理の一元化を進めるため、平成27年度から県内市町の水道施設の運転監視・維持管理業務を受託しており、現在は県内6市町と県外2市において、業務を継続的に受託し、円滑に業務を実施している。
- 今後の予定として、県外で2件の受託が確定している。このうち、令和7年度から開始予定の横須賀市の業務は、wingAM株式会社^{*}を代表としたJVに参画しているもので、これまでの水道施設での業務実績を基に、下水道施設も含めた上下水道管路等の管理を行う予定としている。

^{*}wingAM株式会社:wingグループの運転監視・維持管理事業を担う会社

【受託状況】

| 年 月 | 内 容 | |
|----------|-------------|----------------------------|
| 平成25年4月～ | 広島県（水道企業団） | 指定管理業務（広島西部地域水道用水供給事業） |
| 平成27年4月～ | 広島県（水道企業団） | 指定管理業務（沼田川工業用水・水道用水供給事業） |
| 平成27年4月～ | 呉市 | 運転監視業務（宮原浄水場等）【H31指定管理に移行】 |
| 平成27年4月～ | 尾道市 | 運転監視業務（長江浄水場等） |
| 平成28年4月～ | 江田島市（水道企業団） | 運転管理業務（前早世浄水場等） |
| 平成28年6月～ | 廿日市市（水道企業団） | 水道施設保守点検業務（市内全域） |
| 平成31年4月～ | 呉市 | 浄水場運転監視業務等指定管理業務（宮原浄水場等） |
| 平成31年4月～ | 三原市（水道企業団） | 水道施設運転監視業務（西野浄水場等） |
| 令和3年4月～ | 京都府京都市 | 水質監視装置監視業務等（水質管理） |
| 令和3年10月～ | 東広島市（水道企業団） | 水道施設維持管理業務（市内全域） |
| 令和5年4月～ | 滋賀県大津市 | 水道施設維持管理業務（市内全域） |
| 令和6年4月～ | 北広島町（水道企業団） | 水道施設維持管理業務（町内全域） |
| (今後の予定) | | |
| 令和6年11月～ | 大阪広域水道企業団 | 自動検針システム維持管理業務（伝送装置等）【JV】 |
| 令和7年4月～ | 神奈川県横須賀市 | 上下水道管路維持管理業務（上下水道管路等）【JV】 |

ウ 効率的な維持管理に向けた取組

- デジタル技術を積極的に取り入れ、タブレット端末による施設点検の標準化、点検結果の集約化を行うとともに、遠隔・相互監視ができるシステムや体制を構築することで、適切な設備点検や安定的な水質管理・水運用の実現と、危機管理体制の充実に図っている。

- 事業継続計画（BCP）や緊急時対応マニュアルを整備し、災害時を想定した訓練を実施することにより、危機管理に係る体制強化と対応能力向上を図っている。
- 平成30年7月豪雨災害では、指定管理施設の本郷取水場が被災し、送水不能となったが、水みらい広島の県内事業所や水ingからの動員などにより応援体制を構築して復旧を行い、被災から11日で全ての送水を再開するなど、早期の復旧に寄与した。

② DXの推進

- さらなる維持管理の効率化と品質の向上・均一化を目的に、DXを推進しており、指定管理施設の白ヶ瀬浄水場でAIによる薬品注入自動化に取り組んでおり、現在、実証実験を行っている。
- 水道企業団発注の水道広域運転監視システム構築業務を、株式会社日立製作所と共同で受託している。本業務において、監視・制御システムの異なる施設間を相互に監視・制御するための水道広域プラットフォームの構築と、広域運転監視ができるシステムの開発を行っており、水道企業団の9浄水場を対象に、令和7年度から稼働予定である。
- 水みらい広島や協力企業のDXの取組とその将来性についてアピールすることを目的に、広島県や独立行政法人国際協力機構（以下、「JICA」という。）などの後援のもと、東京大学教授をはじめ、JICAや協力企業からゲストを招き、令和6年5月17日にDXセミナーを主催した。自治体、企業や学生など289名の参加があり、取組を幅広く知ってもらう良い機会となった。

③ アセットマネジメントの推進

- 水中ロボットを活用した配水池等の点検・清掃業務を実施しており、平成29年度から令和5年度までに、県内外から延べ23件の業務を受注した。
- 炭酸ガスを活用した独自の洗浄工法による配管洗浄業務を実施しており、令和元年度から令和5年度までに、県内外から延べ8件の業務を受託した。
- 今後、管路の設計積算業務や現場施工監理業務など、工事発注から工事竣工までにおいて、発注者を支援する業務に取り組むこととした。

④ 技術者育成・研修

- 県内の水道技術者の育成を目的に、官民の水道事業関係者を対象とした研修プログラム「水みらいアカデミー」を平成28年度から開始し、現場で活用できる技術的な研修のほか、経理などの事務的な研修や水道行政の動向に関する講演会などを実施している。令和5年度は、15件の研修、1件の講演会を実施し、自治体や企業などから、延べ308人の参加があるなど、社内外の水道技術者の育成に寄与している。
- 設立時から資格取得支援制度を設けるとともに、資格保有を手当に反映するなど、社員のスキルアップを図っている。現在、有資格者数は119人であり、業務の遂行に必要な資格者を確保している。
- 社員の技術力の向上を目的に、JICAの海外プロジェクト（パキスタン）に参加しており、これまで蓄積した技術やノウハウを活用し、海外の水道事業の課題解決に貢献している。

⑤ その他（GX、下水道分野）

- 脱炭素の動きや昨今の電力料金高騰による費用の増加に対応するため、水道施設のデマンドレスポンス（DR^{*}）による電気使用量の適正化を図る、グリーントランスフォー

メーション（GX）に取り組むこととしている。

※DR：電力利用者自ら電力使用量を制御して電力の需給バランスを調整すること

- 厚生労働省が所管していた水道行政が国土交通省へ移管されるなど、上下水道を一体的に管理運営しようとする動きを踏まえ、上水道分野で培ってきたノウハウやDX技術を活用し、下水道分野の業務にも取り組むこととしている。

⑥ 地域貢献

- 地元の雇用創出のため、地元学生を対象とした合同企業説明会に参加するなど、地域での人材確保に努め、プロパー社員の地元雇用率は約8割（R5. 4. 1入社）となっている。
- 業務の外部委託にあたっては、地元事業者への発注を優先し、日頃から地元事業者との協力関係を強化している。
- 地域の清掃活動への参加、小学生を対象とした施設見学会、出前水道教室、水みらいカップ少年野球大会の開催、イメージキャラクター「ミズミライオン」の作成、エディオンピースウイング広島でのデジタルサイネージ広告の掲載など地域に直結した広報活動により、地域との連携強化や水道事業への理解を深める活動に取り組んでいる。

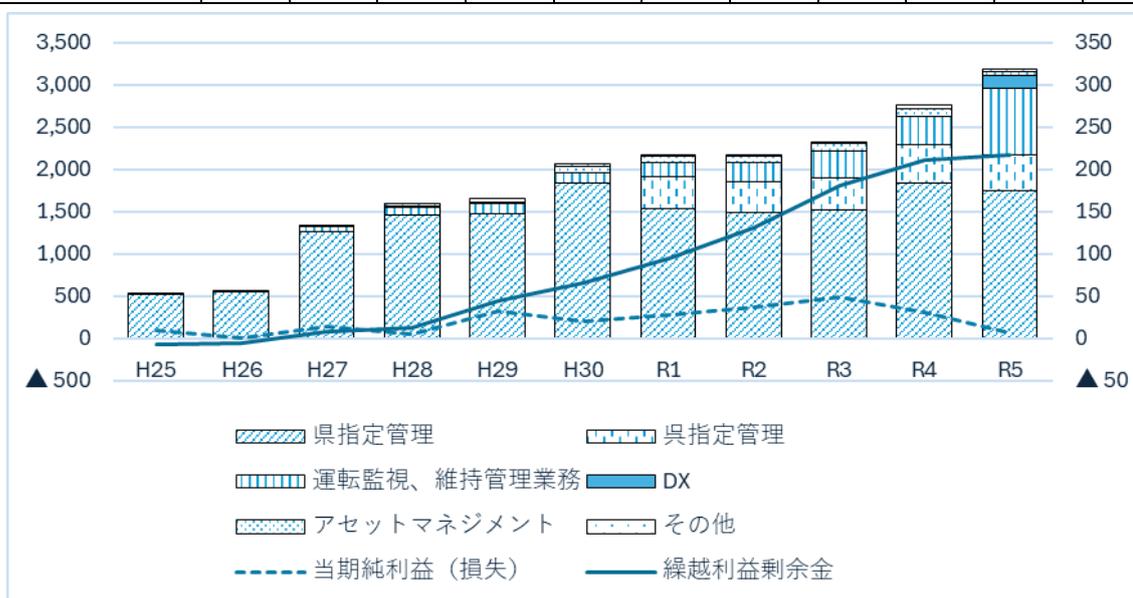
4 水みらい広島の経営状況

(1) 経営状況

- 令和5年度の売上高は約32億円であり、事業開始時（平成25年度）の概ね6倍に拡大した。
- 事業開始時は、県指定管理業務の受託のみであったが、現在は、県指定管理業務以外の受託が売上高の半分を占めるまでに増加している。
- 事業開始から11年間連続して黒字を計上し、令和5年度末の繰越利益剰余金は約2億円となっている。

【経営状況の推移 損益計算書（単位：百万円）】

| 区分 | H25 | H26 | H27 | H28 | H29 | H30 | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 |
|-----------|-----|-----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 売上高 | 538 | 555 | 1,342 | 1,589 | 1,654 | 2,064 | 2,167 | 2,162 | 2,319 | 2,759 | 3,186 |
| 当期純利益（損失） | 9 | 0 | 14 | 5 | 33 | 21 | 28 | 37 | 49 | 31 | 6 |
| 繰越利益剰余金 | ▲7 | ▲6 | 8 | 13 | 45 | 66 | 96 | 131 | 180 | 211 | 217 |

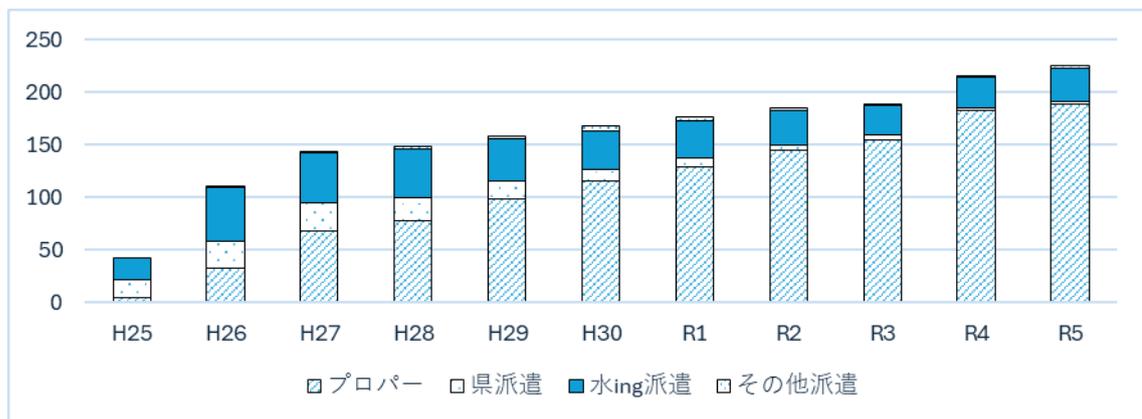


(2) 社員数

- 令和6年6月末の役員を除く常勤社員数は227名であり、業務量の増加に合わせ、設立当初の約6倍まで増加している。
- 社員は、出資者からの派遣社員とプロパー社員で構成している。設立時は派遣社員が中心であったが、事業拡大に合わせプロパー社員の雇用を進め、現在は約8割を占めるプロパー社員を中心に業務を遂行している。なお、県職員の派遣は技術継承に応じて段階的に縮小した。

【社員数の推移（人）】※役員を除く常勤社員数

| 区 分 | H26.6 | H27.6 | H28.6 | H29.6 | H30.6 | R1.6 | R2.6 | R3.6 | R4.6 | R5.6 | R6.6 |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|------|------|------|------|------|------|
| プロパー社員 | 4 | 32 | 68 | 77 | 98 | 116 | 129 | 145 | 155 | 183 | 189 |
| 県派遣 | 17 | 26 | 27 | 22 | 17 | 11 | 9 | 5 | 4 | 2 | 2 |
| 水ing派遣 | 21 | 51 | 47 | 47 | 41 | 36 | 35 | 32 | 28 | 29 | 32 |
| 呉市派遣 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 | 3 | 3 | 3 | 3 | 2 |
| その他派遣 | 0 | 1 | 1 | 2 | 2 | 5 | 3 | 3 | 2 | 1 | 2 |
| 計 | 42 | 110 | 143 | 148 | 158 | 172 | 179 | 188 | 192 | 218 | 227 |



5 県の支援等

今後の事業環境の変化などを見据え、水みらい広島が強みを活かし、戦略的に事業を展開することにより、企業価値を向上させ、県民負担の最小化を実現するため、引き続き、共同出資者である水ingと連携・協力し、事業展開に必要なリソースの確保や県内水道事業者との調整など、出資者として支援を行っていく。